



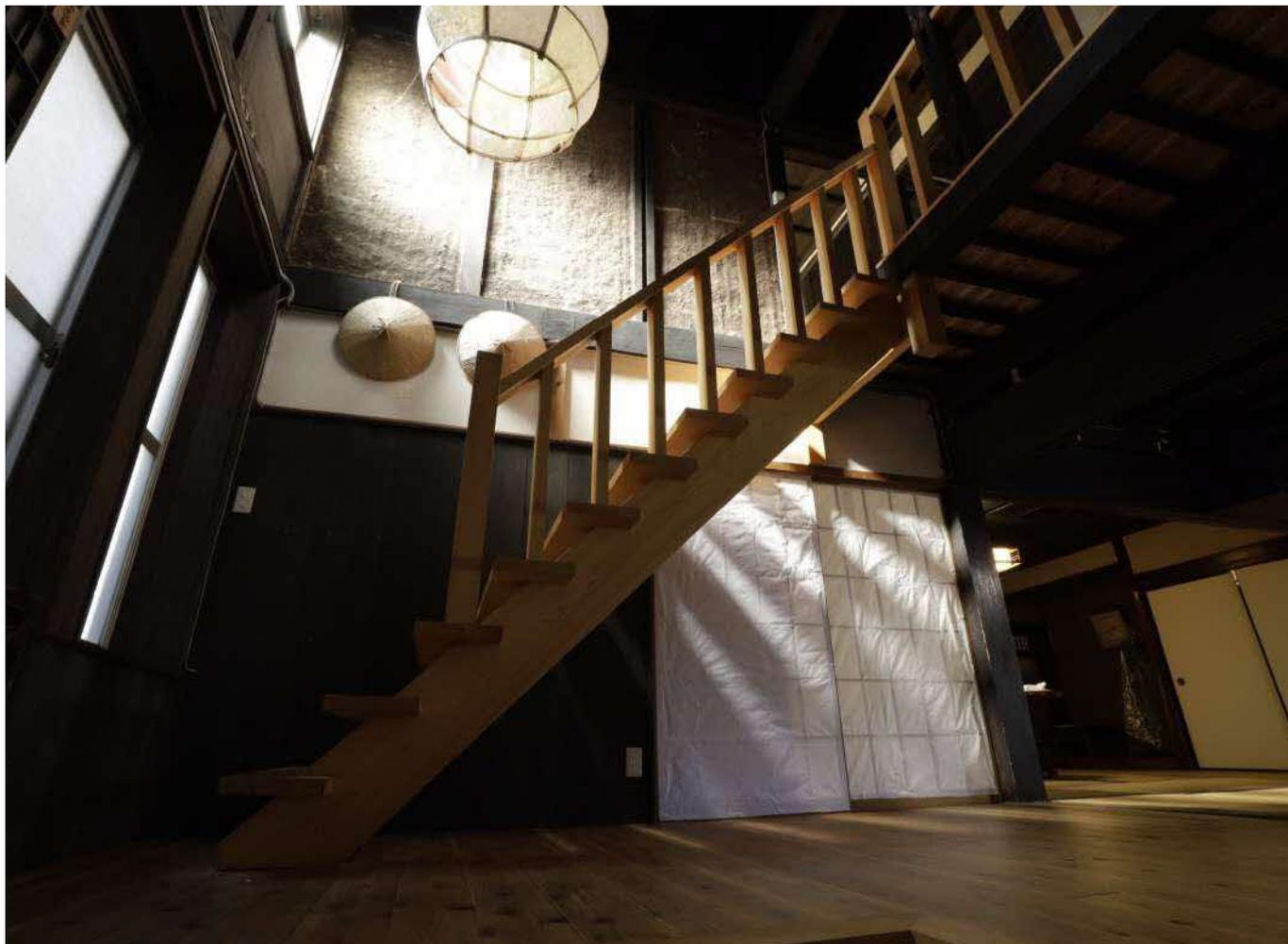
非住宅部門
事例

13

空き家利活用コンテスト2023 優秀賞

しかの宿 本田中家

アートや地域力で
江戸末期の古民家を地域交流の拠点に再生



江戸末期に建てられた建物は、国の登録有形文化財として今でも残る鹿野町の宝。2014年5月に所有者から相談を受け、鹿野町の文化財を未来に残そうと、いんしゅう鹿野まちづくり協議会が約3年間の検討を経て、7か月にわたる改修工事を行い、ゲストハウス「しかの宿 本田中家」として2018年5月にオープンさせた。

駐車場整備をDIYで行うなどコストカットも図りつつ、国の登録有形文化財を守るため、そして意匠を損なわないよう既存の構造を最大限に活かした。鳥取大学工学部学生の協力を得た解体作業や、寄付金も大きな支えとなった。

1階の共用スペースは、地域の交流やイベントの場としても活用。竈があった場所は建築当初と同じ、吹き抜けの階段室に戻し、アートイベントで作成したオブジェを照明に活用するなど、地域の文化を取り入れながら古民家の風情を活かし、結婚式の前撮りやイベントなど多様な利用が生まれている。

この建物は、鹿野城下町に初めての滞在施設。江戸末期の古民家を利用した貴重な建物は清潔感のある改修を施しながら、地域の空き家から出た家具や装飾品を再利用しレトロな雰囲気を残している。朝食には地元のパン屋、昼食・夕食には鹿野の飲食店を紹介し、地域の食文化とも連携するなど、これからも地域活性化の拠点として、さらなる発展を目指している。

倉庫として使っていた階段上の空間を取り払い、開放的な吹き抜けに改装。空間を照らすランプはアートイベントで制作した作品を使用し、歴史ある空間に独自の演出を加えている。





歴史ある建物を可能な限りそのままの形で活かし、人が集う場所にした。来館者を迎える空間を見上げると大きな梁が存在感を表している。江戸時代から現代につづく力強い空間。



地域から受け取った、レトロな雰囲気を持つ時計や筆筒。

エントランスである土間から和室につながるスペース。





江戸時代に作られた家の特徴をそのまま活かし生まれた空間。低い天井の雰囲気を残せるようにダウンライトを採用。シンプルな空間になっている。



[DATA]

- 【所在地】鳥取市鹿野町鹿野1408 【構造】木造2階建て
- 【築年月】1863年 【改修後の用途】ゲストハウス
- 【間取り構成】個室6室・キッチン・土間・階段室・シャワー室1カ所・トイレ2ヶ所
- 【改修期間】2017年9月～2018年3月
- 【改修費用】約311万円
- 【設計者】いんしゅう鹿野まちづくり協議会